

今年4月より、本校校長として赴任しました原 佳織と申します。太宰府市立太宰府東中学校より異動してまいりました。どうぞよろしくお願いたします。私は小さい頃より歌うことが大好きでした。歌っていると心が豊かになる、歌を聴いていると笑顔になる、なぜだか心が軽くなる、そんな気持ちをもっともっと味わいたいと思い、音楽にたくさん触れてきました。そうして、大好きな音楽を子どもたちと一緒に学びたい、音楽のすばらしさを伝えたいと思い学校の先生になりました。音楽は私にとって「燦燦と降り注ぐ光」でした。誰にでも自分を輝かせてくれる「光」があります。進む方向を照らす「光」があります。そんな自分だけの「光」を見つけてほしい、感じてほしいと思います。

令和6年度が始まりました。4月10日(水)第46回入学式で新入生138名を迎え、2年生130名、3年生100名、太宰府中368名での船出です。「始まり」から、私たちは多くの刺激を感じることができます。そして、その刺激から勇気や挑戦心が心の底からわいてきます。4月という節目であるこの時期に必ずといっていいほど読み返す詩があります。それが石

森延男(いし

もりのぶお)の「この新鮮な気持ち」をです(上資料)。私がこの4月に太宰府中に初めて来た日に「さあ、この場所で精いっぱいがんばろう」と強く思いました。新しい1年が始まったいい機会。何事もポジティブに感じたり考えたりして、これから経験するたくさんの方の事を楽しんでほしいと思います。その一つ一つの経験が自分の可能性を必ず広げていくはずです。太宰府中のみなで、生徒会スローガンにあるようにこれまで以上に「進化」した学校を創っていきましょう。

この新鮮な気持ちを

石森 延男

春になった。

空には、白い雲が光って、羊の群れのように浮かんでいる。山すその林が、うす緑になって深呼吸している。

そうして、みんなは、中学生になった。

校舎も、教室も、机も、黒板も、窓ガラスも、友達の顔も一何を見ても、新鮮な気持ちがするだろう。

なんでも新鮮に見える今のこの目を、大事にしていこう。

そうして、何かを発見するような目を、育てていこう。

泉から水がわく、あの新鮮さを、心に持ち続けたいものだ。

なんでも見慣れてしまっはははは。

「見慣れるなんて、そんなはずはないよ。」

こう言いたいところだが、なかなかそうはいかないものだ。

よくものを見ているようで、実は見ていないことが多いからだ。

あとで思い出してみようとしても、

少しも思い出せないことだってある。

心を働かせてものを見るようにしたいものだ。

時には、記憶にとどめ、

時には、想像の翼を伸ばして、ものを見るようにしよう。

(中略)

春になった。

そうして、みんなは中学生になった。

今のこの新鮮な気持ちを失わないようにしよう。

何か今までと違ったものを発見していうように努めよう。



これまでありがとうございました！

これまで太宰府中学校のために、たくさん力を尽くしてくださった12名の先生方が3月末に離任されました(右掲載)。愛情いっぱいの先生方から、どれほど大きな学びがあったことでしょうか。先生方から学んだことをしっかりと力に変え、精いっぱい頑張っていきます。そして、令和6年度太宰府中学校のみなで、これまで以上に「進化」した素晴らしい学校となるように力を合わせていこうと思います。12名の先生方の新しい学校でのさらなるご活躍とご発展をお祈りしています。本当にこれまでありがとうございました！

ホームページ掲載につき、

省略させていただきます。

